

第 1 部

- ♪ ブエノスアイレスの冬 A. ピアソラ
- ♪ バルダリート
- ♪ リベルタンゴ
- ♪ タンゴ I. ストラビンスキー
- ♪ イントロダクションとタランテラ E. ハッチ
- ♪ チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007
 プレリュード J. S. バッハ
 アルマンド
 クーラント
 サラバンド
 メヌエット1、2
 ジーク

第 2 部

- ♪ ラ・コンガ・デ・メディアノーチェ E. レクオーナ
- ♪ カチート C. ベラスケス
- ♪ ラ・クンパルシータ G. ロドリゲス
- ♪ タンゴ I. アルベニス
- ♪ スペイン舞曲 第5番 E. グラナドス
- ♪ 火祭りの踊り M. de ファリャ
- ♪ スペイン舞曲 第1番～オペラ「はかなき人生」より
- ♪ カルメン幻想曲 P. サラサーテ
 アレグロ モデラート（序奏・間奏曲アラゴネーズ）
 モデラート（ハバネラの歌）
 レント アッサイ（鼻歌「トゥ・ラララ」）
 アレグロ モデラート（セギディージャの歌）
 モデラート（ジプシーの歌）

演奏者プロフィール

マリンバ：明瀬 由武 AKASE Yoshitake

東京芸術大学音楽学部器楽科打楽器専攻卒業。各ラジオ・テレビに出演。ポピュラーの分野でも全国的に演奏活動を行う。NHK FMにて新実 徳英「For Marimba I」、西村 朗「ソロマリンバのための詩曲」他、数多くのマリンバ作品の初演をする。青年海外協力隊々員として中米コスタリカに派遣され、国立音楽院ソルフェージュ科教授、国立交響楽団打楽器奏者として、国立劇場をはじめ各地にてリサイタルを行う。

現在、東京・つくばをはじめ各地にて演奏活動を行っている。

CD「マリンバの贈り物～クリスマスの日に～」

CD「マリンバの贈り物パート2～星降る夜に～」

(ピアノ：高瀬 奈美 作・編曲：織田 英子)

<http://museum.world.coocan.jp/y.akase/index.html>

ピアノ：高瀬 奈美 TAKASE Nami

武蔵野音楽大学器楽科ピアノ専攻卒業。クラシックの古典から近代・現代音楽までピアノ音楽の可能性を探って、多彩な演奏活動を展開。つくば市では、2002年からピアノ独奏による「叙情詩集」、様々なゲストを迎えての「夜想曲シリーズ」が11回を数え、昨年11月には全曲ファリアの作品による「ファリアのタベ」を開催、好評を博す。

「つくば朝のサロンコンサート」メンバー。

CD「ジョン・ケージ/ソナタとインターリュード」

編曲者

野田 雅巳 NODA Masami

ピアソラ作品、ラ・コンガ・デ・メディア・ノーチェ

織田 英子 ORITA Eiko

カチート

西邑 由記子 NISHIMURA Yukiko

ラ・クンパルシータ

アンケートにご協力ください。パソコンの方はホームページから、



携帯の方は左のQRコードからお送りください。
お待ちしております。

主催：久守文化基金

マリンバとピアノによる

MIXMAGIC

ミックス マジック コン서트 Vol.8

情熱・タンゴ・舞曲

マリンバ 明瀬 由武

ピアノ 高瀬 奈美

2017年1月28日(土) 3:00PM

MUSICASA



ミックスマジックコンサート・・・・・・



マリンバとピアノ。どちらも鍵盤を叩いて音を鳴らす楽器。

一見ぜんぜん似ていないけれど、よく似ている楽器・・・・・・。

マリンバは木の響きをパイプがひろげ、ピアノは金属ワイヤーの響きを木の響板がひろげる。

あべこべのようで、実は同じよう・・・・・・。

あまりに、その二つの楽器は、同じような素材を使って出来ているので、時々似通った音を出してお互いを邪魔してしまう。

なかなか合わせるのが難しい楽器同士でもあります。

でも、それが上手くいったときには、魔法の時が訪れます。

作曲家、編曲者、演奏者、それぞれの個性がミックスされ新しく生まれる時間を、聴きにいらして下さった皆様と共に楽しみたい・・・・・・。

そんな想いからミックスマジックコンサートを始めました。

どうぞ、魔法の時をお楽しみください。

～今日のプログラムについて～

ミックスマジックコンサート第8回は「情熱・タンゴ・舞曲」と題しておおくりします。

古くから今に至るまで、音楽と踊りは分かちがたいものがあり、数々の名曲が生み出されてきました。今日は、バロック時代の舞曲から、人々の熱い想いをかきたてるタンゴやスペイン音楽まで、心躍る舞曲の数々をお楽しみいただきたいと思います。

第1部

♪ フェノスアイレスの冬、バルダリート、リベルタンゴ

A. ピアソラ (1921～1992)

ピアソラ (Astor Piazzolla) は、アルゼンチンの作曲家、バンドネオン奏者です。

彼はそれまでの型にはまったアルゼンチンタンゴから脱却した形式、いわゆる「踊れないタンゴ」を書いたので、タンゴの革命家とされています。元来タンゴは踊りのための伴奏音楽であり、強いリズム性とセンチメンタルなメロディーをもつ展開の分かりやすい楽曲でした。ピアソラは、そこにポリフォニーやフーガといったクラシックの構造や、ニューヨークジャズのエッセンスを取り入れることで、独特の世界を作り出しました。彼の創造したジャンルは「**Nuevo Tango**／ヌエボ タンゴ／新タンゴ」と呼ばれています。

・フェノスアイレスの冬： **Invierno Porteño**・・・「フェノスアイレスの四季」の中の一曲です。1969 年冬、ピアソラ五重奏団のリサイタルで初演されました。

・バルダリート： **Vardarito**・・・友人のタンゴバイオリンの第一人者 エルビーノ バルダへの鎮魂歌。1972 年発表。

・リベルタンゴ： **Libertango**・・・リベルタンゴという単語は、「自由」 libertad と「タンゴ」 tango を組み合わせた造語。アルゼンチンの雰囲気嫌いがさして、イタリアで演奏活動していたときの作品。1974 年発表。

♪ タンゴ

I. ストラビンスキー (1882～1971)

ストラビンスキー (Igor Stravinsky) は「春の祭典」や「火の鳥」などを書いたロシア出身の近代作曲家です。

「タンゴ」は、彼がアメリカに移り住んだ 1940 年頃の作品で、一筋縄ではいかないストラビンスキー流の、都会的で屈折した雰囲気を醸し出すピアノ曲です。

♪ イントロダクションとタランテラ

E. ハッチ (1906～1996)

ハッチ (Earl Hatch) はアメリカ合衆国の打楽器奏者、作曲家です。特に、マリンバがクラシック楽器として認められ始めた 1950 年代頃、作品の少なかったマリンバのために、数百曲を作曲・編曲、発表し出版しました。また、マリンバ制作も行い、往年の名画「ドクトルジバゴ」「サウンドオブミュージック」「王様と私」で、彼の作ったバスマリンバの音を聴くことができます。日本では 1960 年代にマリンバのオリジナル作品を並べた演奏会が盛んに行われた時代がありましたが、当時、ハッチの作品もよく取り上げられました。

この曲は重厚な前奏に始まり、ジャズ風のビートをもった軽快なタランテラ、そしてゆったりと流れるバルカローレ (舟歌) へと展開していく、変化に富み、マリンバの技巧が発揮された秀作です。

♪ チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV1007 J.S. バッハ(1685～1750)
J.S.バッハ(Johann Sebastian Bach)は1720年頃、無伴奏チェロのための組曲を6曲作っています。長い間、単純な練習曲として忘れられていましたが、1890年、パブロ・カザルスによって再発掘されて以降、チェリストのバイブル的な存在になりました。それぞれに舞曲の名前が付いていますが、この時代の組曲は、踊るために書かれたものではなく、純粋に楽器のために作曲されています。
コントラバス、サクソフォン、テューバ、エレキギターなど、さまざまな楽器のために編曲され演奏されています。

- ・プレリユード : Praeludium (4 分の 4 拍子)
- ・アルマンド : Allemande (2 分の 2 拍子)
- ・クーラント : Courante (4 分の 3 拍子)
- ・サラバンド : Sarabande (4 分の 3 拍子)
- ・メヌエット 1,2 : Menuetto 1,2 (4 分の 3 拍子)
- ・ジーク : Gigue (8 分の 6 拍子)

Ⅲ 第2部

♪ ラ コンガ デ メディア ノーチェ E. レクオーナ(1896-1963)
レクオーナ(Ernesto Lecuona)はキューバの音楽家です。作曲活動のかたわら、ピアニストとして、またバンドリーダーとして、世界的な演奏活動を繰り広げました。キューバ革命でスペインに永住したこともあり、スペイン音楽の影響も感じられます。
「ラ コンガ デ メディア ノーチェ: La Conga de Media Noche」の和訳は「真夜中のコンガ」です。遠くから聞こえてくる夜中の12時の鐘の音、コンガのリズムにのっての踊り。最初はおどおどと、徐々に興が乗って・・・いろいろな想像を膨らませてくれます。

♪ カチート C. ベラスケス(1924～2005)
ベラスケス(Consuelo Velázquez)はメキシコの女性作曲家、ピアニストです。
日本では「カチート: Cachito」は彼女の作った「ベサメムーチョ: Besame Mucho」と並んでラテンのスタンダードナンバーとなっていますが、それ以外の曲はほとんど知られていません。

♪ ラ クンパルシータ G. ロドリゲス 1897～1948)
ウルグアイのロドリゲス(Gerardo Rodríguez)がもともと仮装行列(Comparsa)の行進のために作曲したと言われていますが、アルゼンチンタンゴの代表曲で「24時間365日、常に世界のどこかで必ず演奏されている」との伝説もあるほどです。

♪ タンゴ I. アルベニス(1860～1909)
スペイン カタルーニャ出身のピアニスト・作曲家アルベニス(Isaac Albéniz)は、スペイン近代民族主義楽派として特にピアノ曲を多く作曲しています。タンゴは組曲「スペイン」作品165の第2曲で、彼の全作品中で、もっとも知られている曲かもしれません。

♪ スペイン舞曲 第5番 E. グラナドス(1867～1916)
やはりカタルーニャ出身のグラナドス(Enrique Granados)は、アルベニスと並び、スペインの国民的作曲家として有名です。民族色の強いアルベニスの音楽と比較すると、彼の音楽はその民族性に加えて、ロマン的な性格が強く、その甘美さ、繊細さにおいて、シューマンや、ショパンとも通じるところがあるようです。一方で、印象派的な傾向など、ドビュッシーからの影響も見られます。この曲は「スペイン舞曲集」作品37の第5番で、ギター風の伴奏の上に哀愁を帯びたメロディーが歌われており、この曲集の中でもっとも知られている曲となっています。

♪ 火祭りの踊り M. de ファリャ(1876～1946)
ファリャ(Manuel de Falla)はとりわけ、出身地アンダルシアのフラメンコに興味を寄せ、多くの作品にその影響が表れています。初期作品の中で最も重要な作品はオペラ「はかなき人生」です。また、「恋は魔術師」「三角帽子」など、彼の作品には、民族主義と印象主義の両方がバランスよく混在しています。
「火祭りの踊り」はバレエ音楽「恋は魔術師」の中でもっとも有名な曲で、「燃えさかる炎の前で、激しく踊って悪魔払いの儀式する」様子を描写しています。
原曲はオーケストラのために書かれていますが、いろいろな楽器で演奏されています。今日はファリャ自身の編曲によるピアノソロでお聴きください。

♪ スペイン舞曲 第1番～オペラ「はかなき人生」より
オペラ「はかなき人生～La Vida Breve」はファリャの出世作ですが、この第2幕で演奏されるスペイン舞曲はファリャ自身のピアノ編曲もありよく演奏されます。曲は、哀愁に満ちた旋律とスペイン風リズムから構成されています。
今日はF.クライスラーのバイオリン版を元に演奏します。

♪ カルメン幻想曲 P. de サラサーテ(1844～1908)
「ツィゴイネルワイゼン」の作曲家サラサーテ(Pablo de Sarasate)はスペイン北東部(バスク地方)出身です。カルメン幻想曲(仏: Fantaisie sur Carmen)作品25は、J. ビゼー作曲のオペラ「カルメン」に登場する旋律を用いて、バイオリンのテクニクをふんだんに聴かせるバイオリンと管弦楽のための幻想曲です。「カルメン」の旋律を基にした同種の作品は数多くありますが、その中でもっとも有名なものです。